



## Q&A 観光業界関係者の皆様への「安全」に関する質問と回答 - 2016 年夏

この「質問と回答」は、観光業に携わる関係者の皆様が、フランス国民および来仏外国人の安全保障のための措置の範囲について顧客の方々に回答できるようにするためのものです。昨年末の事態と、革命記念日にニースで発生した事件にもかかわらず、フランスはなお 8500 万人が訪れる世界一の観光目的地となっています (EVE 調査<sup>1</sup>)。非常事態宣言は 2017 年 1 月 31 日まで延長されており、フランス当局は、一年を通じて観光客の受入れと安全確保への努力を続けています。

### 安全措置全般について

観光客の安全確保のために、どのような措置が実施されていますか？

当局また業界関係者も、安全性を最優先事項の一つとしています：

- 非常事態とはフランス共和国大統領により発令された措置で、国民の安全確保を目的とするものです。この暫定的な措置により安全警備が強化され、また機動隊には、より拡大した警備力が付与されます。
- 現在、警察および憲兵隊が増員され、フランス全土に配置されています。
- 公共交通機関、また特に観光名所など一般市民を受け入れる施設の周辺でも、警備と人員が増強されています (パリの施設では通常の 3 倍に増員)。
- さらに観光業界の全代表者が、来訪者の安全を守るため、追加の警備員の募集を発表しています。

団体旅行者に対する特別な指令が出されていますか？

団体旅行者に対する特別な措置は出されていませんが、当局からの全般的な指令は守る必要があります。

### フランスへの入国と国内の移動について

フランスへの入国と国内の移動には、どんな書類が必要ですか？

ヨーロッパ連合 (EU) 加盟国の市民を含む全ての外国人来訪者は、身分証明書 (パスポートまたは国内の身分証明書) を所持してはなりません。機動隊は、フランスへの入国および出国時を含めていつでも身分証明書の提示を求めることができます。

安全措置の強化による、空港や国際線の駅 (タリス、ユーロスターなど) での待ち時間への影響はわずかです。

<sup>1</sup> 企業総局 (フランス経済・産業・デジタル省) とフランス銀行が共同で実施した「外国人来訪者」に関する EVE 調査。データ発行：2016 年 4 月

フランスの入国ビザの提示を求められるヨーロッパ連合(EU)加盟国市民以外の人々のビザ発行条件は、この数カ月間に変わりましたか？

ビザ発行の条件の変更はありません。一部の国々では、発行期間がむしろ短縮されています。ビザの有効期間についても変更はありません。

## 交通について

公共交通機関ではどのような警備が行われていますか？

空路および国際鉄道網へのアクセスの際の搭乗・乗車前の点検が強化されていますが、過去数ヶ月間に人員が増強されたため、待ち時間はほとんど同じです。

公共交通機関内の監視とチェックの措置が国内全域で実施されています。機動隊は個人および荷物類のチェックを行うことができ、また特例として、危険とみなされる私物の輸送を禁止する権利があります。

## ホテル、レストランについて

フランスのホテル内ではどんな安全確保措置が実施されていますか？

フランス法に従って、外国人滞在者はホテルで所定の用紙に必要事項の記入が義務づけられています。

そのほか、各施設は安全上のチェックを行う権利があります。

レストラン、バー、クラブでは、どんな安全確保措置が実施されていますか？

レストラン、バー、クラブは開いており、通常通り営業しています。ただし顧客の安全を確保するため、各施設には安全チェックを行う権利があります（手荷物検査、接触検査など）。

## 観光、ショッピングについて

美術館や観光地で実施されている安全対策について、把握しておくべきことがありますか？

パリ、イール=ド=フランス、さらに広くフランス全土の公共文化施設では、安全対策が強化されています（手荷物検査、接触検査、大型バゲージを所持した人の入場拒否など）。当局が必要と判断した場合は、見学者の安全を確保するために、一部の施設の入場条件に関して例外的な措置がとられることがあります。

店やモールで実施されている安全対策について、把握しておくべきことがありますか？

一般に、各店では安全対策が強化されています（手荷物検査、接触検査、バゲージの持込みの拒否など）。

## イベント、フェア、見本市について

### 公共のイベントの構成や進行に関する特別な措置がありますか？

フランス全土で、公共の場で開催される行事は許可されています。これは、つつがなく進行できるよう特別な安全対策がとられているからです。個々のイベントの状況により、知事の判断で開催が中止されることがあります。

パリに関しては、7月14日にニュースで“新種の手口”による事件が発生したため、警視庁は、パリ都市圏の域内において、公道でのデモの際や、配慮を要する地域、群衆が集まる可能性のある地域には、路上の警備と連携して、監視を強化するとともに、機動隊の警備態勢をも強化しています。全域にこの措置を講じることにより、「パリ・プラーージュ」計画は予定通り遂行され、2016年7月20日よりオープンしています。

それに対し、2016年8月7日に予定されていたシャンゼリゼの歩行者天国、7～8月にパリの公園と庭園で開催が予定されていた戸外の映画祭、また2016年7月23～24日にブルーズ・ド・ルイイーで予定されていたバスケットボールの選手権大会「Quai 54」のように、安全の保証が充分ではない一部のイベントは中止となりました。

### 講演会、会議、見本市の開催日程に変更はありませんか？

ここ数カ月来、イベント主催者と開催施設の管理者は、当局の代表者とともに、見本市、フェア、会議、その他のイベント企画に関して安全対策の強化を検討しました。これらのイベントの開催日程は変わりません。

## 主な窓口

パリ：

パリ観光局：[www.parisinfo.com](http://www.parisinfo.com)  
[traveltrade@parisinfo.com](mailto:traveltrade@parisinfo.com) +33 1 49 52 42 68

地下鉄：[www.ratp.fr](http://www.ratp.fr)

パリの空港：[www.parisaeroport.fr](http://www.parisaeroport.fr)

パリ市役所：[www.paris.fr](http://www.paris.fr)

フランス：

フランス外務・国際開発省：[www.diplomatie.gouv.fr/fr](http://www.diplomatie.gouv.fr/fr)

鉄道：[www.voyages-sncf.com](http://www.voyages-sncf.com)

緊急時の連絡先：

- 緊急医療サービス (Samu) : 15
- 警察 : 17
- 消防署 : 18
- ヨーロッパ共通緊急時電話番号 : 112